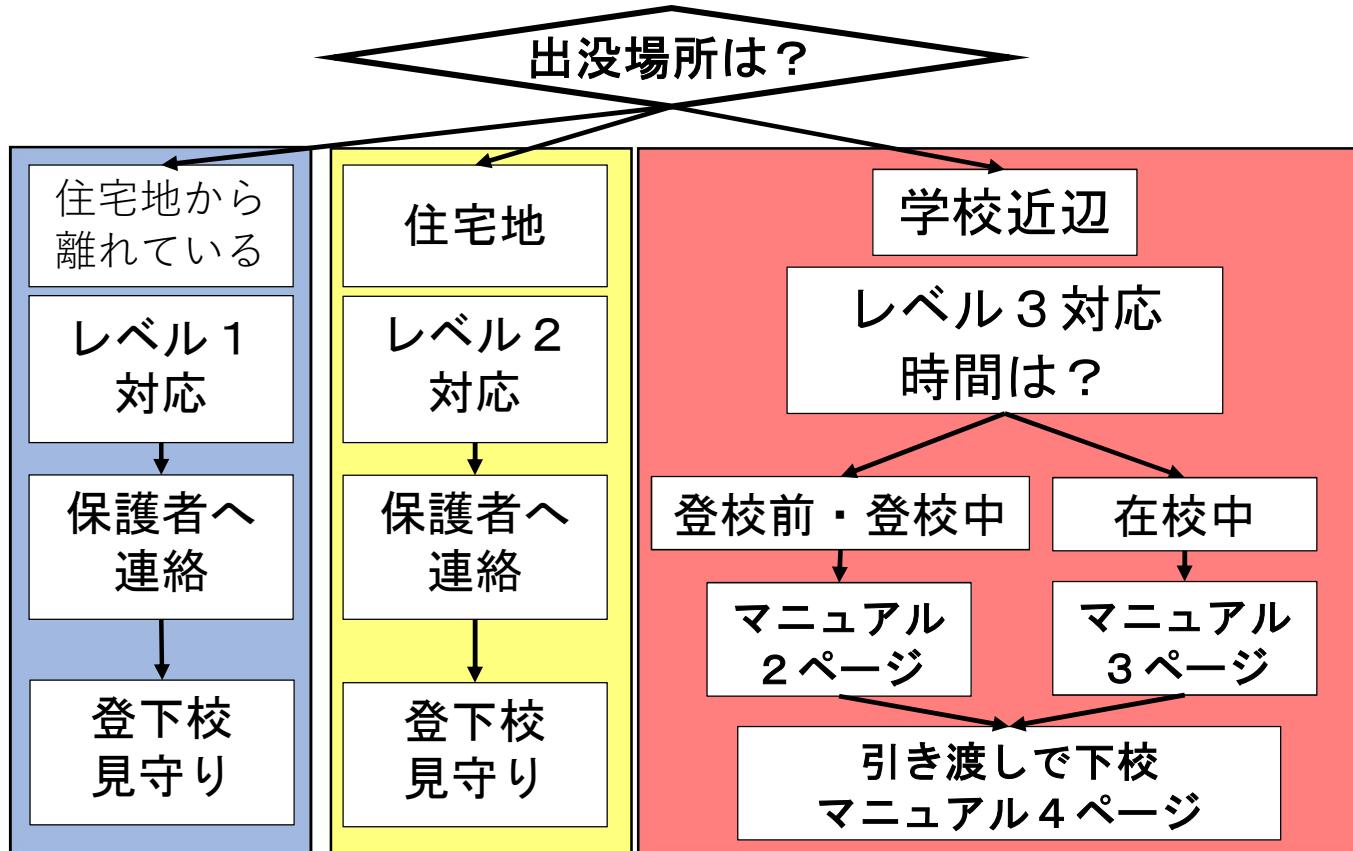


平泉町教育委員会クマ出没対応マニュアル

クマ出没情報あり



【クマ出没場所に応じた危険レベル】

クマ出没場所	レベル	登下校時の対応	在校時間の対応
住宅地から離れている (山間部等)	1	<ul style="list-style-type: none"> 通常の登下校 登下校時にクマ目撃地点付近を職員が巡回 	通常通りの活動
住宅地	2	<ul style="list-style-type: none"> 通常の登下校 登下校時にクマ目撃地点付近を職員が巡回 保護者へ「心配な場合は送迎・バス停へのお出迎えをお願いします」と連絡 	通常通りの活動
学校近辺 (およそ半径 1km)	3	<ul style="list-style-type: none"> 登校を中止し自宅待機 引き渡しでの下校 	校舎外の活動禁止 ドア・窓施錠

レベル3　登校前・登校中の対応

□保護者へ連絡

- 「登校を中止。連絡あるまで自宅待機。」
- 「すでに学校に登校している児童生徒は学校で保護。」
- 「自宅待機が難しい家庭は、保護者が車で送迎して学校へ。」



□スクールガードへ連絡

- 「身の安全を最優先に。」
- 「可能であれば車での巡回を。」



□職員による巡回・立哨・出迎え

- 校舎外へ出る職員はクマ撃退スプレー・クマ鈴等を携帯
- 校舎外へ大音量で音楽等を流す
- 児童玄関以外のドア・窓の施錠
- 登校した児童生徒の保護及び校舎外へ出ないように指導
- 安否確認ができない児童生徒の保護者へ連絡
- 必要に応じて児童生徒を2階へ避難
- 全児童生徒の安否が確認でき次第、すべてのドア・窓の施錠と音楽等の停止



□保護者・スクールガードへ連絡

- 「全児童生徒の安全確認完了。」
- 「登校している児童生徒は引き渡しでの下校。」
- 「時間は追って連絡。」



□職員招集・対応協議

- 登校している児童生徒の対応について
- 引き渡し時間について
- 決定事項は保護者へ連絡

レベル3 在校中の対応

□全児童生徒・職員の屋内避難

- 屋外での活動を中止し、すぐに屋内へ避難
- 屋内避難後、全児童生徒・職員の所在確認。
- 必要に応じて2階へ避難
- 避難完了後、全てのドア・窓を施錠



□職員間での情報共有・対応協議

- 今後の活動についての確認
- 下校方法の確認



□児童生徒への指導

- 校舎外での活動禁止
- 校舎内での過ごし方について



□保護者へ連絡

- 「引き渡しでの下校となる。」
- 「時間・方法については追って連絡。」

レベル3 下校の対応

□職員間での情報共有と対応協議

- 下校手段（引き渡し、スクールバス、路線バス等）・手順の検討
- 職員の役割分担を確認



□保護者へ連絡

- 引き渡しでの下校となることを報告
- 下校時間・引き渡しの方法を連絡



□児童生徒への指導

- 下校方法・時刻について



□保護者への引き渡し

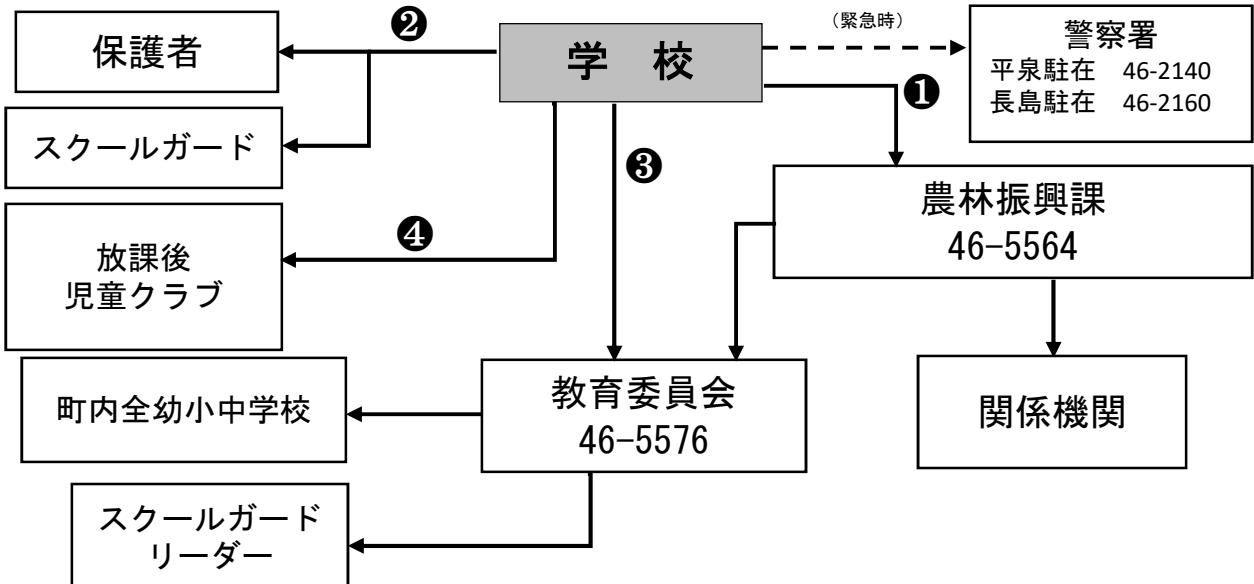
- 校舎外へ出る職員はクマ撃退スプレー等を携帯
- 校舎外へ大音量で音楽等を流す
- 引き渡しで使用するドア・窓のみ開錠
- 引き渡し終了後、音楽等を止める

連絡網

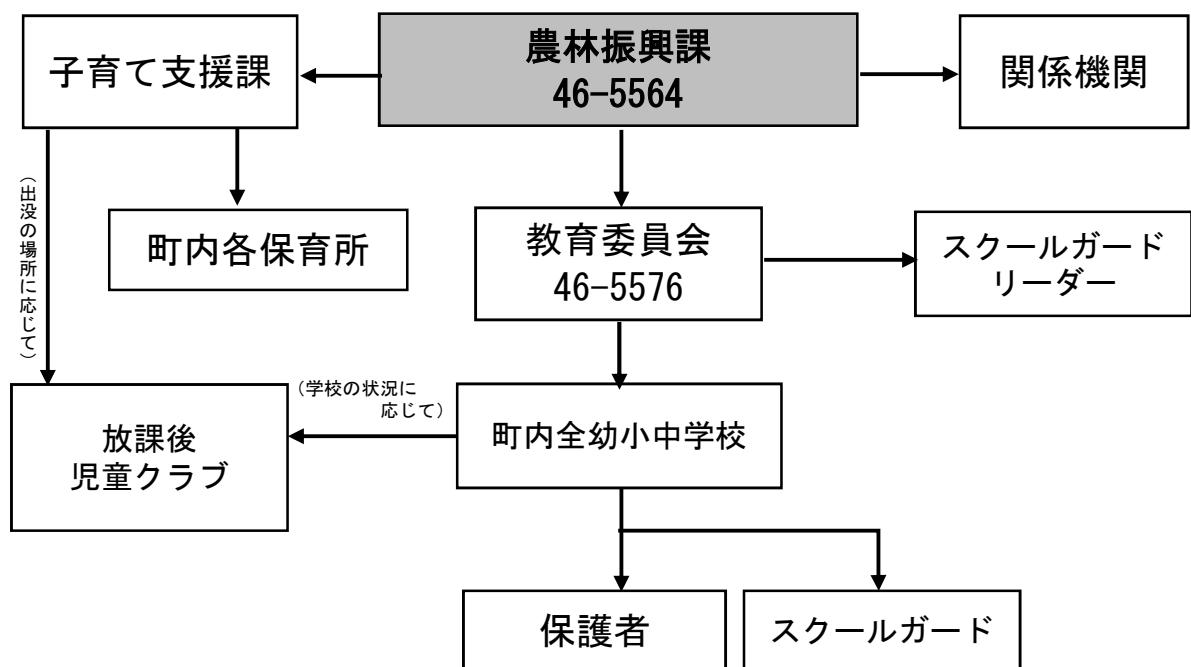
学校付近にクマが出没した場合

【要確認】 ①場所 ②日時 ③大きさ
④個体数 ⑤被害の有無

(●数字は連絡順)



町役場にクマ目撃情報が寄せられた場合



【各校における平時の対応策の例】

- 保護者・地域・関係機関とクマが出没した際の対応を協議しておく
 - ・ 学校の対応について、事前に保護者・地域・関係機関へお知らせする
- 職員の巡回・立哨・出迎え等の時間や役割分担、位置等を決めておく
- スクールガードへの協力依頼
 - ・ 登下校時の見守りや巡回等の依頼等
- 校地内にクマを近づけないための対策を講じる
 - ・ 実のなる樹木等は早めに収穫
 - ・ クマのエサになるようなものを放置しない（学級菜園で収穫したもの等）
 - ・ 校舎周辺の草木を切って、明るく、見通しを良くしておく

【子どもへの指導例（登下校・放課後の活動について）】

- 携帯品の指導
 - ・ クマ鈴等の音の出るもの（持っていない場合は持っている人と一緒に行動）
※人の存在をクマに知らせ、出会わないとための道具
- クマに出会った際の対処法の指導
 - ・ 背中を見せて走って逃げない
 - ・ 目を離さずゆっくり後ずさり
 - ・ カバン等を置いて逃げる
 - ・ 大声で叫ばない
 - ・ 石や棒を投げつけない
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし、地面に伏せて防御する
- クマを見かけたら身を守る行動を第一優先とし、近くの民家やお店に保護をお願いすること
- 1人で行動しないで、友達や保護者と一緒に行動する
- 食べ物を持ち歩かない
- 屋外での遊びの指導（山や藪などでの遊びは控えること）
- クマが近くにいるサインがあったら、その場から離れる
 - ・ 糞がある（人間と同じかちょっと大きめ）
 - ・ 足跡がある（幅は成獣で7~13cm）
 - ・ クマ棚がある（樹上に折った枝を集めたもので、クマが枝を折りながらドングリ等を食べた跡）
 - ・ クマ剥ぎがある（スギやヒノキの根本から2mぐらいまで樹皮が剥された痕跡）

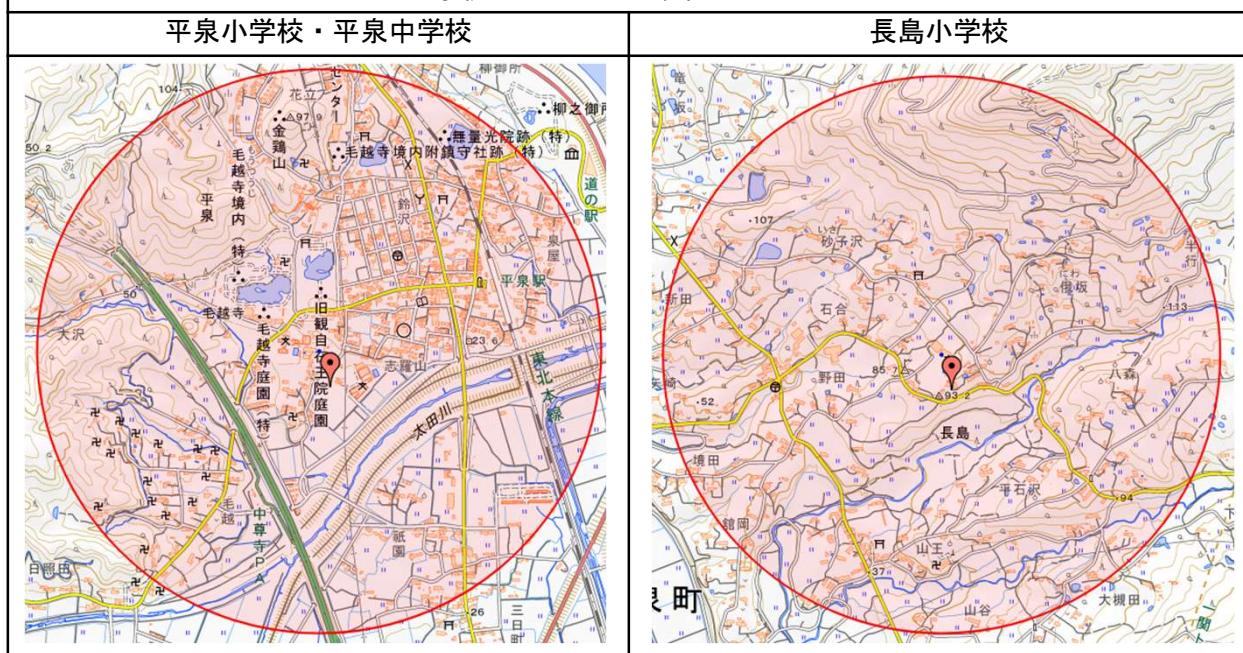
【クマの習性】

- 例年平泉町では5~7月頃（令和5年度は9~11月）に多く目撃されている。
- 熊の繁殖期は6~7月で、その時期にオスが頻繁に出歩く。
- クマは本来昼行性であるが、人との接触を避けるために夜に行動することもある。
- 暑い時期は、涼しい早朝、夕方の活動時間が増え、朝夕に目撃されやすい。
- 9~11月は冬眠に備えてエサを探すため、夜でも活動する。
- 草木を切って明るくするとよい。クマは警戒心が強いため、暗い所に出やすい。
- エサを求めて移動する。行動範囲が広い。
- トウモロコシが好きで、畑に出てくることもある。桑や柿など実のなる樹木にも来る。
- クマは臆病な動物であるが、脅すと怖がって襲ってくる。
- 子連れの場合、何もないところに出て、子グマが遊んでいることがある。また、母グマは子グマを必死で守るため、子グマに近づくと危険。
- 夏の暑いときは、川で遊んでいることがある。
- 嗅覚がものすごく敏感で、においにつられて来ることがある。
- もしも、クマに出会ってしまったら…
 - ・ 背中を見せて走って逃げない（本能的に襲ってくる）。ゆっくりと後ずさりして離れる。
 - ・ カバンなどを持ち物を置いて、それにクマが気を取られている隙に逃げる。
 - ・ クマが興奮するので、大声で叫んだり、石や棒などを投げつけない。
 - ・ クマが攻撃してきたら、両手を首の後ろに組んで、顔を伏せる姿勢をとる。（頭や顔を守る）

【クマ出没対応マニュアルの運用について】

- ・どのレベルでも児童生徒への注意喚起・指導を行うこと。
- ・危険レベル2以上では公欠を認めるものとする。
- ・学校近辺とは学校から約半径1キロの範囲をめやすとする（クマは短時間で1キロ程度を移動することが可能であり、学校周辺に到達する可能性があるため）。ただし、1キロはあくまでめやすであり、地形や出没状況に応じて柔軟に対応すること。
- ・同じ地域で複数回もしくは連日クマの目撃がある場合にはレベルを上げる等柔軟な対応を行うこと。
- ・クマの出没情報がある場所で巡回・立哨・出迎え等を行う場合には、クマ撃退スプレーを携帯する等、身を守るための対策を行うこと。

学校から1キロの範囲について



【クマに関する資料】

- ・クマに注意！思わぬ被害を防ぐためにツキノワグマのことを知る（岩手県）
https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/005/472/pannfreotto.pdf
- ・冬眠明けのクマに注意（岩手県）
https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/005/472/touminakechuumi.doc